

母校の校歌を作ってみよう

ミュージックコース

作曲

目的

- ・感動・感銘をメロディで表現することを学ぶ。
- ・基本コードの理解と、コード進行の効果的な使い方を身につける。

効果

- ・作曲の楽しさが体感でき、1つの自己表現手段となる。
- ・音楽を通じて、人と人とのコミュニケーション術を学ぶ。

到達点

- ・多様なジャンルの音楽を聴き、音に対する感受性が高まる。



講師 佐藤 心
しん さとう

事前学習

受講生それぞれが、もっとも好きな曲を選び、その理由を考える。

ワークショップの流れ (2日間×2コマ/日)

受講生が事前に選んだ、もっとも好きな曲のうちの3曲を選出し、CD鑑賞

↓
「きらきら星」の曲を例にして、音譜・拍子・コードについて解説

↓
「きらきら星」にさまざまなコードをつけ、最もふさわしいコード進行を考える実演と講義

↓
DVDを観ながら、音楽の根源と音楽の楽しさについての考察と講義

↓
グループまたは個人で校歌や学年の歌を作り、ピアノと合唱で発表

↓
発表作品に具体的なアドバイスをし、合評

事後学習

生徒同士でテーマを出しあい、即興演奏の演習をする。

略歴

作曲家

幼少よりクラシックピアノを習い、中学生の頃からバンド活動を始める。ジャズピアノは辛島文夫氏に師事。1980年京都大学入学。在学中は「劇団そとばこまち」に所属し役者の傍ら、芝居・ミュージカルの音楽制作に携わる。バンド活動も続け、様々な楽器を習得。NHK「グルグルバックン」「ストレッチマン」、「みてハッスルぎいてハッスル」などのテーマ曲、BGM、ラジオドラマの音楽、舞台の音楽などを手がける。



- 会場に、ピアノとオーディオ機器を準備する。



…ワークショップを実施して…

講師の感想

今まで何気なく耳にしていた音楽に、別の角度から接する体験をしてもらえたと思う。また、大きな目標をもたないまま進学や就職をする人が多い中、自分の好きなことを追求し、それを職業にすることも出来ることを、身をもって示すことができた。生徒たちの人生に何らかのヒントを残せていれば幸いである。

先生の感想

全員に作曲の技術を学ばせるというよりも、曲を作ることを通じて、生徒たちに驚きや感動、気づきを体験させたいと考えていた。講師からの批評やアドバイスに加え、生徒の作品をプロが編曲して聴かせる機会等があれば、驚きや反応がさらに高まると思う。

生徒の感想

- ・作曲はすごく難しく遠い存在だと思っていたが、友達が作った歌に感動し、身近に感じる事ができた。
- ・自分の力では到底追いつけない職人の領域というものを感じた。
- ・自分が作詞・作曲した歌を人前で初めて発表してみて、作曲に興味をもった。

より発展的なワークショップを実施するために

- 自分の好きな曲を、編曲を変えて演奏してみる。
- 日頃のできごとや、その日の気持ちや感動を曲にしてみる。
- 友達や家族の誕生日などに、作曲してプレゼントする。